

小學修身鑑補 卷五

257  
388

館新山會育教本日大

一 冊	九 號	一 架	一 函
--------	--------	--------	--------

不認定等

K120.1  
1  
5

K120.1

1

5

吉田利行編輯

版權所有

# 小學修身鑑補

魁玉堂藏版

## 小學修身鑑補卷五

吉田利行編

### 第一孝行

一河内國日下ノ里ニ樊ヲ業トスル清七ト云者アリ家貧ニシテ早ク父ヲ喪ヒ獨母ト居リシガ母ハ富人ノ家ノ乳母タリシヲ以テ貧シキ世ヲ經テモ口服ノ下ニ儉スル能ハズ然ルニ清七ハ孝心深ク朝ニハ人ヨリモ早ク山ニ入

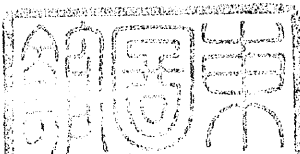
一孝ハ百行の本もと衆しゅう善ぜんの始めなりヨキ後漢書



# 小學修身鑑補卷五

吉田利行編

## 第一 孝行



一 河内國目下ノ里ニ捷ヲ業トスル清セリ云者アリ家貧ニシテ早ク父ヲ喪ヒ獨母ト

一 孝ハ百行の本衆（孝ハ百行ノ本衆）  
善（ぜん）の始めなり（善ノ始めナリ）  
後漢書

居リシガ母ハ富人ノ家ノ乳母タリシヲ以テ貧シキ世ヲ經テモ口服ノ一ニ儉スル能ハズ然ルニ清セハ孝心深ク朝ニハ人ヨリモ早ク山ニ入

小學修身鑑補

卷之五

一

目

文

官

リ夕ニハ後レテ歸リ其間ニ  
 二人前ニ當ル薪ヲ採リ其一  
 人ニ當ル分ハ常ノ賄ニ充テ  
 一人前分ヲ以テ母ノ好ナル  
 食ヲ調ヘ常ニ乏シゲナク母  
 ヲモテナセリ

- ② 若シ其身無禮不義ヲ行ヒテ父母ヲ憂ヘシメバ假令日ニ味好キ口腹ノ養ヲ進ムトモ不孝ナルベシ初學訓
- ③ 父兄長上教督スル所アラバ但當ニ首ヲ低レテ聽受スベシ妄ニ自ラ議論ス可カラズ 童蒙須知
- ③ 父母過アラバ氣ヲ下シ色ヲ怡バシ聲ヲ柔カニシテ以テ諫メ諫メ若シ入ラザレバ敬ヲ起シ孝ヲ起シ説ベハ則

② 父母にハ温和を  
 主として事ふべし  
ヤハラカ  
 家道訓

龐氏鄰舍  
 守寓シ  
 テ姉ニ事  
 フル語

復諫ム 禮記

③ 漢ノ姜詩ノ妻龐氏ハ貞順ニシテ其姑ニ事フル一尤モ謹メリ姑江水ヲ飲ム一ヲ好メバ龐氏其勤勞ヲ憚カラバ

③ 父母の教誡に従  
 て怒り恨む可らず  
イカ  
ウララシヘイシメ  
 禮記

自ラ一里許ノ路ヲ行キ江水ヲ汲ミテ姑ニ奉ゼリ姑又魚鱸ヲ嗜メバ姜詩夫妻常ニ魚鱸ヲ作りテ之ヲ供シ百事其意ニ順適セン一ヲ務トセリ然ルニ姑尚此事ヲ以テ龐氏ヲ怒リ姜詩ヲ責メテ之ヲ遣去セシメタリ龐氏鄰舍ニ寄寓シ晝夜紡績セシ賃ヲ以テ珍羞ヲ市ヒ鄰母ニ託シテ其意ヲ以テ自ラ之ヲ遺ラシム斯ノ如クスル一久シケレバ姑之ヲ怪ミ問ヘリ鄰母乃對フルニ實ヲ以テセシカバ姑

漸感シテ龐氏ヲ召還セリ龐氏奉事スル一愈々篤ク以テ其歡心ヲ盡サシメタリト云フ

④ 凡ソ父母ノ身ヲ養フニハ飲食衣服居室器物ヲ不足ナク備フルニ在リ子タル者は心ニ掛ケテ營ムベシ初學訓

④ 孫次郎ハ肥後山鹿湯町ノ人ニシテ世々鍛冶ヲ業トセシガ業拙クシテ行レズ窮匱殊ニ甚シ年五十ニシテ未ダ

娶ル一能ハズ父死シテ獨母ト居ル性至テ孝ニシテ體ニハ常ニ全衣ナシサレ氏供奉頗ル厚シ母酒ヲ嗜ム孫次郎

少シク錢ヲ得レバ必沽テ之ヲ進ム酒家其孝心ヲ感シ酒ヲ賣リテ錢ヲ取ラズ孫次郎

悦バズシテ曰ク是ノ如クバ

④ 孝子の老を養ふや其心を樂ましめ

其志に違はざる其耳

目を樂ましむ禮記

足下吾母ヲ養フナリ我願クハ吾母ヲ養ハント乃立去リテ他ニ沽フ後ニ酒家皆其意ヲ悟リ沽フ毎ニ價ヲ減シテ之ヲ賣リ又孫次郎郷人ノ宴會ニ與カリテ肉アレバ必食セズ齋シ飯テ母ニ遺ル衆之ニ感ジ其肉ヲ食セズシテ更ニ之ニ與フ

又里中ニ温泉アリ母之ニ浴スルヲ喜ブ孫次郎常ニ背負ヒ往來セリ冬ハ已カ身ヲ以テ母ノ衣ヲ温メ夏ハ母ノ枕ヲ扇ギ冬月寒夜ハ母ノ熟眠スルヲ待テ已カ被ヲ加ヘ潛ニ出デ、温泉ニ浴シテ寒ヲ禦ギ黎明ニシテ飯ル母嘗テ曰ク汝年五十ニシテ而モ壯ナラズ我が亡セザルノ故ヲ

孫次郎母ヲ負フテ乘馬ノ狀ヲナス活

以テ斯ノ如ク自テ苦シムハ吾ガ安カラヌ所ナリト孫次郎曰ク吾資性頗ル健ナリ膂力最強シ久シク坐スルヲ好マズ行歩スレバ體ニ適ス況ンヤ母ト行クニ何ノ樂カ之ニ如カン夫ノ士人ヲ觀ルニ出入ニ輿馬アリ我母ハ輿馬ナシ幸ニ一男アリテ強壯ナル一馬ニ過ギタリ今母之ニ乘ル何ノ羨ムトカアラゾト母ヲ負ヒテ出デ顧ミテ曰ク馬ノ疾徐ハ母ノ心ニ任セント或ハ趨リ或ハ止リ或ハ局促ノ狀ヲナシ或ハ蹠蹶ノ勢ヲナス母乃大ニ笑ヒ觀ル者モ亦笑フサレモ感嘆セザルハナシ母疾メバ傍ヲ離レバ衣帶ヲ解カズ其欲スル所ヲ問ヒカヲ極メテ之ヲ辨ジ其衣衾ヲ洗濯シテ臭穢ヲ去リ介抱一トシテ至ラザルナシ其死スルニ及デ之ヲ野ニ葬リ號哭シテ去ラズ日々往

宿瘤女桑ヲ摘ミ王ヲ觀ザル事

テ哭ス里人爲メニ皆涙ヲ掩フ國主細川氏之ヲ恤ミ俸ヲ給シテ城府ニ置ケリ  
[五] 齊ノ閔王出デ、遊ビシニ百姓盡之ヲ觀ル獨宿瘤女トテ項ニ大ナル瘤アル女桑ヲ採リテ觀ザリシカバ王怪テ問テ曰ク百姓ハ皆來リ見ルニ汝ノ視ザルハ何ノ故ツト女對テ曰ク妾ハ父母ノ教ヲ受ケテ桑ヲ採レリ大王ヲ觀ヨトノ教ヲ受ケズト王曰ク賢女ナリト後車ニ命ジテ載セシメントセシニ女曰ク父母家ニ在リ教ヲ受ケズシテ王ニ隨フハ是奔ルナリ王安ゾ用ヒ玉ハント閔王大ニ慙シ使ヲ遣シテ之ヲ聘シ立テ

五 親老ぬれば出る  
に方を易へむ復る  
に時を過さず  
禮記

テ后トス后官室ヲ卑クシ池澤ヲ填メ膳ヲ減ジ樂ヲ徹シケレバ期月ノ間ニ德化鄰國ニマテ行ハレタリ

⑤父母年老テハ淋シキモノナレバ常ニ側ヲ離レヌ様ニスベシ和語 廣錄

⑥一タビ失ヒテ再ビ得可カラザル者ハ父母ナリ人ノ子タル者はヲ思ハゞ如何デ孝心ヲ起サヅルベキ大論 衍義

⑥樹静ナラント欲シテ風停大論 衍義マズ子養ハント欲シテ親待大論 衍義タズ韓詩外傳

⑥山田古嗣ハ越後ノ介益ノ

子ニシテ天性篤孝ナリ幼年ニシテ母ヲ喪ヒ從母ニ敬ヒ事フ嘗テ韓詩外傳ヲ讀ンデ樹静ナラント欲スレハ風止マズ子養ハント欲スレハ親待タズト云フニ至リテ流涕已マズ卷帙是ガ爲メニ沿濡セリ後子父ノ憂ニ罹リ衣毀又禮ニ過ヤタリ仕ヘテ大外記ニ至ル承和十年出デ、阿波介トナリ政績世ニ聞エタリ

古詞書ヲ見テ流涕スル事

⑦凡ソ孝ノ道ハ父母存生ノ間能ク事フルノミナラズ父母死シテ後終ヲ慎ミテ葬リテ厚クシ遠キヲ追ヒテ時節ノ祭怠ル可カラズ又我身ヲ終ルマデ父母ヲ思ヒ慕ヒテ

⑦死に事ふると生

に事ふるが如く也

中庸

忘ル可カラズ 初學訓

丁蘭親ノ  
木像ニ  
テ供フル  
部

七 漢ノ丁蘭幼ニシテ父母ノ喪ヒ孤苦艱難シテ纔ニ成長セシカ切ニ父母劬勞ノ恩ヲ思念シ其奉養ヲ得ザリシヲ痛ミ乃木ヲ以テ雙親ノ像ヲ刻ミ朝夕ニ物ヲ供ヘ拜跪シテ之ニ事フルヲ猶生ケル父母ニ事フルガ如クセリ

## 第二作法

一 言語ハ確正分明ナランヲ要スベシ太ダ高クスルヲ勿レ太ダ低クスルヲ勿レ

自警編

一 言語は徐緩にし  
て詳審ならんとを

張堪卿ニ  
ノ寺門ニ  
歩スル事

一 東漢ノ張堪矜嚴ニシテ禮ヲ好ミ坐作進退皆度アリ閑室ニ處ルモ必容貌ヲ整ヘ妻子ニ遇スルト雖モ嚴君ノ如シ

要すべし

自警編

初左馮翊トナリ政化大ニ行ハレ後ニ鄉里平陵ニ飯リシ時寺門ヲ望ミテ歩ス屬吏進テ曰ク公位尊シ宜ク自ラ輕ンズ可ラズト堪曰ク禮ニ公門ニ下リ路馬ニ式スト又孔子ノ鄉黨ニ於ル恂々如タリト父母ノ國ハ宜ク禮ヲ盡スベシ何ゾ輕ズト謂ハント愈々恭シ

二 人ト論ズルニハ須ク容貌從容ニシテ言語温厚ナルベシ決シテ劇烈ナル可カラズ

紳瑜

二 高言誼閑し浮言



③ 夫争鬪スルハ其身ヲ忘ル者ナリ其親ヲ忘ル、者ナリ其君ヲ忘ル、者ナリ須臾ノ怒ヲ行テ争鬪スルハ終身ノ過ナリ然ルニ乃チ之ヲ爲スハ是其身ヲ忘ル、ナリ

童蒙須知

④ 群小兒ト群聚シ相戯レテ其服スル所ノ衣ヲ摔破ス可カラズ垢穢ニ親近シテ其淨潔ナルヲ汚淥ス可カラズ

⑤ 凡子弟タル者ハ須ク尊長ノ事ニ勤勞スベシ自ラ尊長ノ態ヲナシテ安逸ヲ爲ス勿レ慎思録

⑥ 凡諸ノ昇幼事大小トナク專行スルヲ得ル、母レ必家長ニ咨稟セヨ 司馬溫公

⑦ 女子夫ノ家ニ行キテハ萬ヅノ事舅姑ニ問テ其教ニマカスベシ 女大學

⑧ 人ト行走スル片ハ好路ヲ擇ブ、勿レ揚椒山遺屬

⑨ 很フニ勝ツ、ヲ求ムル

戲笑すべからず

③ 凡喧鬪争鬪之處には近づく可からず

④ 西諺曰無益の事論ハ勝つに益あり

⑤ 父母長上召す所あらば疾走してす

⑥ 争論ハ勝つに益あり

⑦ 父母長上召す所あらば疾走してす

⑧ 争論ハ勝つに益あり

⑨ 父母長上召す所あらば疾走してす

⑩ 争論ハ勝つに益あり

母レ分ツニ多キヲ求ムル  
母レ禮記

王養蒙  
ヲ争ハザ  
ル話

六 晋ノ王養年數歳ノ時祖母  
諸孫姪ヲ集メ棗栗ヲ牀ニ散  
ズ群兒競フテ之ヲ取ル養獨  
リ動カズ祖母其故ヲ問フ養  
對ヘテ曰ク取ラズシテ自ラ  
常サニ賜モノヲ得ベシ  
七 尊者ノ前ニ居ル時他人來  
テ用事アラント思ハゞ其坐  
ヲ退クベシ日新館童子訓  
七 人書信ヲ附セバ閱拆沈滯

べからず 童蒙須知

六 人と飲食する時

は甘美を貪ること ウマキセ

なかれ 楊椒山遺属

七 人の隠す事を聞

き出し或は窺ひ見

るべからず 日新館  
童子訓

八 人を待には嚴に

過ぐべからず是人

を安んずるの法な

り 省儉錄

醍醐帝温  
顔録ヲ聞  
キ玉フ事

スベカラズ入ト並ビ坐シテ  
人ノ私書ヲ窺フベカラズ  
八 醍醐天皇群臣ヲ見ル毎ニ  
温顔ヲ以テシテ曰ク已ヲ持  
スル一嚴恪ナル片ハ人々言  
ヲ盡シ難シ故ニ朕常ニ温顔  
ヲ以テ諫者ヲ來シ天下ノ得  
失ヲ知ラントスルナリト  
八 客來タラバ我位ヨリ昇シ  
キ人ナリト早く出テ對スベシ久シク待タシムヘカラズ  
客ヲ久シク待タシムルハ無禮ノ至リナリ 大和俗訓

⑧ 允容タルモノハ故アルニ非ザレバ緩坐シテ時ヲ費シ主人ヲシテ倦怠セシムベカラズ 慎思

# 第三 和親

① 允家ヲ治ムルニ先ヅ父子兄弟夫婦ノ三親ヲ厚クスベシ古語ニ父子親シミ兄弟和シ夫婦正シキハ家ノ肥エタルナリト云ヘリ 家道訓

① 人ノ家興廢スル所以ノ者

① 父母共に存ぞん一兄

弟故なきは一の樂 サハレ

みなり

孟子

ハ禮義ノ有無ト子孫ノ賢否如何トニ在ルノミ子孫果シテ賢ニシテ禮義果シテ明ナレバ則父慈ニ子孝ニ兄ハ友ニ弟ハ恭ニ夫義ニ婦ハ聽ニシテ和氣堂ニ滿ツ何ノ富貴カ之ニ如カン 陸稼亭

① 子弟ノ賢ナルハ必内ニ賢父兄アリ外ニ賢師友アルニ由ルモノナリ 張佩慈

② 何レノ中モ争ハザルガ肝要ナレバ就中兄弟ノ間ハ一紙半錢タリトモ争ハザルヲ先トスベシ財ヲ争ヒ得タリトモ兄弟ヲ失ハバ人タル甲斐アラシヤ争ナキ兄弟ハ金

② 兄は弟惡あしとて

愛を薄うすくす可から

ず弟は兄惡あしとて

泉仲愛田ヲ争フ兄弟ヲ化スル話

銀ノ寶ニ勝ル寶ナラズヤ  
童蒙訓

# 不敬ある可からず

初學訓

三 備前ノ國ニ兄弟田ヲ争フ者アリ更相訴訟ス藩主池田光政泉仲愛ヲシテ之ヲ決セシム仲愛命ヲ受テ歸リ兄弟ヲ一室ニ置キ與ニ飲食セシメ與ニ沐浴セシム夜分ニ至ルマデ斷セス兄自ラ悔イテ弟ニ謂テ曰ク今争フ所ノ田ハ相俱ニ耕耨セバ何如弟曰ク固ヨリ欲スル所ナリト之ヲ仲愛ニ告ウス仲愛悦ンテ曰ク善ヒ哉ト乃チ教フルニ連枝相伐ラザルヲ以テシ且ツ陳スルニ禍福ノ義ヲ以テス兄弟歎欵シテ出ヅ遂ニ天倫ヲ全クスト云フ

三 家ヲ能ク保ツト能ク保タザルトハ夫ノ徳不徳ノミニ

在ラズ又妻ノ行ヒノ善惡ニ依レリ 家道訓

三 西諺ニ曰ク夫ノ賢愚ハ妻ヲ見テ知レ

三 心志高潔ナル婦人ハ其夫ノ品行ヲシテ自ラ貴カラシメ性質卑汚ナルモノハ必其夫ヲ化シテ自ラ賤カラシムルモノナリマリー女

三 長門ノ瀧鶴臺學識徳望並

比高シ同族某氏ノ女ニ面貌極メテ醜黒ナル者アリ筭スルニ及テ之ヲ娶ル人アルナシ其父兄之ヲ憫ミテ曰ク

三 夫は和義を以て  
妻を倡ふ道とす妻  
は順正の二徳を以  
て夫に事ふる道と  
す

醜婦面白ノ給聞ヲ袖ニシ成慎スル話

若シ汝ヲ娶ル者アラバ賤人ト雖モ嫁スルヲ許スベシト然レ女ハ反テ其耦ヲ選ビ常ニ人ニ語テ曰ク鶴臺先生ノ如クナル人ヲ得テ所天トセバ我が願ヒ足ルト人皆之ヲ晒ヘリ會鶴臺此語ヲ傳聞シテ曰ク是我カ知已ナリ必能ク内ヲ治メント遂ニ之ヲ娶ル女既ニ龍氏ニ嫁シ其言勳婉順聽從ナラザルナシ鶴臺客ト語レバ婦人常ニ屏後ニ在テ之ヲ聽ク談或ハ忌諱ニ觸ル、モノアレバ則之ヲ諫止ス一日周旋ノ間忽チ赤絲團アリ其袖ヨリ出テ地ニ墜チタリ鶴臺恠テ之ヲ問フ婦人赧然トシテ曰ク妾が愚ナル平日ノ行爲悔ユベキ者多シ心ニ其過ヲ少ナクセント欲ス因テ赤白二個ノ絲團ヲ製シ常ニ之ヲ兩袖ニ藏ス若シ不良ノ念起レバ則チ赤絲ヲ結ビ若シ善念アレバ則

チ白絲ヲ纏ス初メ一二年間ハ赤團益大ニシテ白團ハ依然タリ由テ惕然反省シ益戒慎ヲ加ヘシニ今ハ赤白二團大サ相等シ是亦良人薰陶ノ致ス所ナリ俱未ダ白團ノ赤團ヨリ大ナルヲ見ザルノミト更ニ一ノ白絲團ヲ袖中ヨリ出シテ之ニ跡シケリ

④子弟ヲ教ヘ戒メテ愛ヲ過ゴサズ彼是ニ付キテ愛憎ノ私ナク子弟ヲ導キ禮ヲ勤ノ書ヲ讀ミ藝ヲ習フニ怠リナカラシムベシ凡子弟ノ教ハ必嚴正ナルベシ家道訓

④奴婢充洛メ難シ是ヲ使フニ道アルベシ遠ザケテ嚴ナ

④西諺に曰主人の  
一眼ハ奴僕どぼくの四眼よんまなこに勝る

レバ怨ミ背ク近ヅケテ忽セナレバ驕リ怠ル恩愛ヲ以テ  
 懐ツケ禮法ヲ以テ正スベシ家道訓

⑤一家ノ人ハ一株樹ノ如シ根タリ幹タリ枝タリ葉タリ  
 大小固ヨリ不同アリ都ベテ氣脈ノ貫通スルヲ要スレハ  
 方ニ能ク長養ス然ラザレバ  
 必枯槁スルモノナリ 畜徳録

⑤宋ニ劉宰ト云フ者アリ月  
 且毎ニ必茶果ヲ浴ソテ宗族  
 ヲ會シテ曰ク今日ノ集會ハ  
 徒ニ酒食ヲ以テ禮ヲ爲ニ非  
 ザルナリ凡宗族ノ相睦シカ  
 ラザルハ多クハ情意ノ相通

劉宰月且  
 宗族ノ  
 親睦會ヲ  
 關ク事

セズシテ聞言ノ入ルヨリ起ルナリ今日相會飲シテ善ア  
 レバ相告グ過チアレバ相規シ又故アリテ相抵牾スル者  
 モ彼此一見シテ從容談笑ノ間ニ其疾隙ヲ相忘ルレバ豈  
 小補ナカラシヤト若シ至ラザル者アル片ハ必再三之ヲ  
 招テ曰ク寧ロ適來ラザルニ吾ヲ顧ミザルナカレト是  
 ヲ以テ其宗族能ク相協親セリ

⑤子能ク其父ヲ尊崇シ且其命令ニ聽從スル片ハ父モ亦  
 其子ヲ尊敬セザルベカラズロソク

マリー女  
 家事ヲ理  
 マ夫ニ助  
 勢スル話

⑥往昔亞米利加ニ「ピウ」ト云  
 ヘル商人アリ其資産素ヨリ  
 薄ク而シテ家族甚多シ又不  
 幸ニシテ商業ニ投機ノ術ヲ

⑤主人は一家の模  
 範なり我能く勤め  
 ば衆何ぞ敢て惰ら  
 ん 願體集

⑥夫は外を治め妻  
 は内を治むる職分

失ト大ナル損失ヲ爲シ其生計モ殆ント覺迫セリ「ウハ

# なり

家道訓

大ニ之ヲ憂ヘ苦ノリ然ルニ其妻「マリ」ハ家中經濟ノ事

ニ熟シタルモノニテ或日夫ニ向ヒ君が屢々商利ヲ得ル

能ハザルハ家中ノ細事ニ心ヲ煩ハス故ナルベシ今ヨリ

妾一層勉強シテ専ラ家事ヲ理メン願クハ良人内事ニ顧

慮スルヲ勿レト此ヨリ「ヒウ」ハ商業ニ勉強シテ數年ノ後

既ニ傾カントスル家屋ヲ挽回スルヲ得タリ

⑥婦人ト小人ノ言奴婢ノ讒言聞言ヲ聞ク可カラズ父子

兄弟夫婦ノ至レル親シミモ是等ノ人ノ間言ヲ信ズレバ

必不和ニナル 家道訓

王元伯四世同爨百口親睦ノ語

日ニ諸女諸婦ヲシテ各一室

ニ聚リ女工ヲ爲サシム業畢

レバ歛メテ一庫ニ貯フ室ニ

私藏ナシ幼兒啼泣スレバ諸

母見ル者即チ抱哺ス一婦歸

寧シテ其子ヲ留ム衆婦共ニ

乳ス孰カ已レノ兒タルヲ問ハズ兒モ亦孰カ已レノ母タルヲ知ラザルナリ兄宣伯卒ス即チ家事ヲ以テ姪軌ニ付

ス軌辭シテ曰ク叔父アリ宜シク之ヲ主ドルベシ元伯曰

ク姪ハ宗子ナリ姪宜シク之ヲ主ドルベシトテ相讓ル

既ニ久シ率ニ以テ軌ニ付ス縉紳ノ家自ラ謂フテ如カズ

トナス至元ノ問其門ニ旌表ス

⑦内睦ト云者は家

道昌之外睦ト云者

は人事濟ト云者

省心襟言

# 第四 反省

① 人ノ善ヲ聞ケバ則傲ヒテ而シテ之ヲ行ヒ人ノ惡ヲ聞ケバ則省ミテ而シテ之ヲ戒ム能ク是ノ如クナレバ則凡人ニ學ブ所ノ者皆我一己ノ善トナル 牧民心鑑

② 司馬溫公賓客ニ對シ賢愚長幼ヲ問フナク悉ク疑事ヲ以テ之ニ問フ草簿筆數技アリ常ニ坐間ニ置ク苟モ片

司馬溫公  
片善ヲ筆  
記スル事

善アレバ手ニ隨テ之ヲ録ス字皆端謹ナリ率子以テ常トス

③ 不善人ハ人ノ共ニ惡ム所ナレト然レト亦人ニ益アリ大抵不善人ヲ見レバ則警懼シテ自ラ不善ヲ爲スニ至ラズ譬ヘバ磨石ノ如シ彼自ラ銷損スルノミ刀斧ハ之ニ資テ以テ利又ト爲ル 世範

④ 善ニハ善報アリ惡ニハ惡報アリ善惡報ナキハ時節未ダ至ラザルナリ 事林廣記

⑤ 人ノ善ヲ爲スヲ見レバ我必之ヲ愛ス我能ク善ヲ爲サバ人豈ニ我ヲ愛セサランヤ人ノ不善ヲ爲スヲ見レバ我

① 人の錯れる處を

見ては時々我身を

返り觀るべし 程漢 寄

② 君子は水を以て

鏡とせずして人を

鏡とす

墨子

③ 人の己を愛せん



必之ヲ惡ム我苟モ不善ヲ為  
サバ人豈ニ我ヲ惡マザル者  
アラシヤ 王陽明

③我人ヲ愛シテ親シマヌン  
バ我愛ノ未ダ至ラザル故ト  
思フベシ人ニ禮シテ人我ニ  
無禮ナラバ我禮ノ未ダ至ラ  
ザル故ト思フベシ 大和俗訓

④昔シ印度ニ裁縫匠アリ一  
日美麗ナル衣裳ヲ縫ヒタル  
巾象來リテ窓ヲ窺フニ戯レ  
ニ針ヲ以テ不意ニ其鼻ヲ刺

裁縫匠象  
ニ復讐等セ  
ラル・話

シタルニ象直ニ退キ川水ヲ  
其口鼻ニ含ミ來リ彼人ニ注  
キカケタレバ披衣裳ヲ浸汚シ  
ト笑レタリ

④西諺ニ曰ク曲レル杖ニハ曲レル影アリ

⑤晋ノ趙盾首山ニ田シ驛桑ニ舍リ一人ノ饑エタルヲ見  
ル其病ヲ問ヘバ曰ク食セザ  
ルト三日ナリト之ニ食セシ  
ムルニ其半ヲ舍キテ食セズ

趙盾饑人  
ヲ救ヒテ  
命ヲ全ク  
スル話

之ヲ問ヘバ曰ク官學スルト  
三年未ダ母ノ存否ヲ知ラズ  
今家ニ近シ請フ以テ之ニ遺

とを欲せば必先づ

人を愛し人の己に

従はんとを欲せば

必先づ人よ從へ

④禍は惡によりて

來る。福は善に縁り

て生ず

ソクラテス

⑤善を爲せば則善

應じ惡を爲せば則

惡報を名を成し身

ラント盾之ヲ盡クサシメテ  
簞食ト肉ヲ橐ニ置キテ之ヲ  
與フ後晋侯盾ノ驥諫ムルヲ  
疾ミ饗シテ之ヲ殺サントス  
侯ノ介士一人戦ヲ倒ニシテ盾ヲ救ヒ之ヲ免レシム盾其  
故ヲ問フ對ヘテ曰ク驥桑ノ餓人ナリト其名ト居トヲ問  
ヘバ告ゲスシテ退ケリ餓人  
ハ晋ノ人ニシテ靈輒ト云フ  
者ナリキ

⑤常ニ心ノ中ヲ省ミテ一点  
ノ私欲邪念アラバ早ク去ル  
ベシ譬ヘバ田ヲ作ルニ莠ヲ

去ラザレバ水ヲ灌ギ肥シテ  
モ莠ノミ茂リテ苗ニ益ナシ  
先ヅ莠ヲ去テ水ト肥シテ用  
フルが如シ 大和俗訓

⑥心ハ身ノ主ニテ万事ノ根  
本ナリ此故ニ心正シカラザ  
レバ身修マラズ 大和俗訓

⑦人ノ病ヒハ其田ヲ舍テ、  
人ノ田ヲ芸ギリ人ニ求ムル  
所ノ者重クンテ自ラ任ズル  
所以ノ者輕キナリ 孟子

⑦人能ク己ニ反スレバ則四

を滅<sup>ほろほ</sup>をは<sup>た</sup>惟自ら之  
を取<sup>と</sup>るなり 省心  
雜言

⑥身を守る心のせ  
まきし正しくば  
世にひがことの

以かで出こむ 春葉集

⑦人を欺かざる者  
は人も亦敢て欺か  
ず人を欺く者は却  
て人の欺く所とあ  
る 言志晩録

通八達皆坦途ナリ若シ常ニ人ヲ責ムルヲ以テ心トスレバ則足ヲ攀グレバ皆荆棘ナリ若登警語

# 第五 養生

- ② 居室モ庭中モ常ニ掃除シテ潔クスベシ斯ノ如クスレバ氣ヲ養ヒ心ヲ潔クス暗ク穢ラハシケレハ心氣ノ養トナラズ家道訓
- ③ 人烟稠密ニ屋宇卑狹ナレバ人ツ子ニ疫病ニ死ス須ク多ク窓戸ヲ開キ高リ地盤ヲ

- 填ノ日ニ洒掃ヲ勤ムベシ左スレバ自然ニ安居シテ恙ナカルベシ全体新論
- ③ 我身朝夕飲食ノ奉養ハ輕クシテ身ヲバ勞動スベシ奢テ酒食ノ美ヲ好ミ怠テ身ヲ安逸ニス可カラズ斯ノ如クスレバ第一徳ヲ養ヒ次ニ身ヲ養ヒ次ニ財ヲ養フ三ツノ益アリ家道訓
- ④ 飲食淡薄ニシテ身ヲ勞動スレバ食氣滯ラズ氣血環リ

① 天下我身より親  
 一きものはかし此  
 人身の貴重を乞  
 所以なりタツトビ オモシズ 自娛集

② 健康の福は財宝  
 よりも大かり  
 財宝は健康に由て  
 得らるへく健康は  
 財宝を以て求む可  
 からずジョンソン

庖人鶴ヲ  
割キテ播  
生ノ道ヲ  
悟ル話

脾胃破レバシテ生ヲ養フニ  
宜シ程伊川

四室町氏ノ時ニ一庖人アリ  
割烹ヲ善クスルヲ以テ眷注  
セラル其齡百有餘歳ニシテ  
狀貌則チ少壯ノ人ノ如シ或  
人問テ曰ク子豈不老長生ノ  
術アルカト庖人笑テ曰ク是  
難事ニアラズト一大匙ノ字  
ヲ書シ之ニ與ヘテ曰ク余刀  
俎ニ從事スル一數十年諸鳥ヲ宰割スルモノ年ニ幾千匹  
ナルヲ知ラズ嘗テ試ミニ其食囊ヲ檢スルニ鳧鴨鴻雁ノ

ニルナロ  
食ヲ節シ  
長命ノ事

屬ハ充實飽滿セザルナシ獨リ鶴ニ至テハ其食囊ノ容ル  
ル所率七八分ニ過ギズ我ニ於テ初メテ其千年ノ壽ヲ  
保ツ所以ヲ知レリ我亦是ニ於テ初メテ人壽ノ節養ニ原  
ヅク所以ヲ知レリ爾後凡ソ口腹ノ欲スル所ニ些ノ字  
ヲ持シテ其限量ヲ失ハズ以テ今日ノ壽ヲ致セルナリト  
五好ム所ヲ以テ身ヲ害フ一勿レ嗜欲ヲ以テ生ヲ妨グル  
一勿レ説苑  
五飢渴ハ人ヲ害スル一少ナ  
ク大食ト暴飲ハ能ク人ヲ殺  
ス西華  
五ウエナイスノ一貴族ロイ  
ス、コルナロハ放蕩ノ朋友ト

三 身を養ふは慾を

寡くするに若くは

無し 王昭素

四 慾多ければ則生

を傷ふ 省心謙言

五 饑えて食ひ渴し  
て飲むは生を養ふ  
所以あり 童子習

交リテ四十歳ニ至ルマデ過飲飽食シテ之カタメニ常ニ多疾ニシテ快樂ノ日少ナカリシガ醫師ノ諫説ニ従フテ惡習ヲ一變シ嚴ニ飲食ヲ節シタレバ其効驗著ニシテ一年ヲ待スシテ疾病悉ク治シテ健康ノ人トナレリ之ニ因テ益適度ヲ守リ一日ニ實物十二ヲンズ淡薄ノ酒十四ヲンスヲ用ヒテ定量トセリ此量ハ稍少ニ過ギテ恐クハ尋常ノ人ニ適セザルベシコルナロ之ニ依テ強健長壽ヲ樂メリ七十歳ノ時誤リテ高キ所ヨリ墜テ手足ヲ打撲シタリシガ斯ク老年且大傷ナレバ尋常ノ人ニ在テハ必不具ノ廢物トナリ或ハ死ニ至ルベキニ不日ニ全治シテ故ニ復シヌ八十三歳ニ及ビテ尚獨り山ニ登リ馬ニ乘リ神氣活潑トシテ小説ヲ書キ間々兒輩ト共ニ翔リ奔リ戯レ遊

ベリ九十八歳ニ至リテ安靜ニ死シ後世ニ節度ヲ守リテ大壽ヲ得タル監戒ヲ遺セリ

⑥ 毎夜睡眠ハ以テ日間ニ費ス所ノ精神欠乏セルヲ補フモノ故ニ快ク眠レバ翌日ニ精神爽快ナリ若シ連日眠ラ欠ゲバ疾病ヲ生ズベシ大率睡眠時間ハ七時間ヨリ九時間ニ至ルヲ以テ常度ト爲ス 弗氏

⑥ 若カキ子弟ノ輩ハ家事ヲ能ク勤メテ怠ラズ父兄ノ勞ニ代ハルベシ 家道訓

⑥ 身ヲ勞スレバ艱難勞苦ニ堪ヘテ忠孝ヲ行ヒ學問藝術ヲ習フニ勤メヨシ若シ身體

⑥ 勤むべきを勤めず臥をよを好み身を休め怠て動かさず

ヲ勞動セズシテ安逸ニ習ヘ  
バ艱難ニ堪ヘズシテ忠孝ノ  
勤メヲ苦シミ學問技藝ニ怠  
ルナリ 家道訓

⑦天ノ生ズル所地ノ養フ所  
惟人ヲ大ナリトス父母全フ  
シテ之ヲ生ム子全フシテ之  
ヲ歸ス孝ト謂フベシ其體ヲ  
虧ガス其身ヲ辱シメザルヲ  
全フスト謂フベシ故ニ君子  
ハ頃歩ニモ敢テ孝ヲ忘レザ  
ルナリ 禮記

張氏身体ノ毀傷ヲ恐ル、事

⑦明末ニ張某ナル者アリ膽  
勇ヲ以テ名ヲ得タリ然ルニ  
某幼推ノ片童子ト遊ブニ他  
ノ童子等危険ノ事ヲ爲ント  
スレバ毎ニ走リテ家ニ歸レ  
リ他ノ童子ハ皆嘲笑シテ以  
テ怯懦トナセリ或人曾テ之  
ニ謂テ曰ク汝常ニ怯懦ヲ以  
テ他ノ童子ニ嘲笑セラレ何  
ヲ以テ恥ヂザルヤト張曰ク  
吾怯懦ナルニ非ズ徒ラニ身  
體ヲ毀傷スルヲ恐ル、ナリ

るは養生に害あり

養生訓

⑦高き木に上ると

勿れ。一たび蹉きて

墜れば肢體養を失

ふ

深き淵を窺ふと勿

れ。一たび墜て溺る

れば永く其身を失

ふ 童子習

⑧身體髮膚之を父

母に受く敢て毀ひ

ト當時之ヲ聞ク者皆之ヲ歎賞セリ後果シテ膽勇ヲ以テ稱セラレタリ

⑧上帝ヲ敬信シ吾身ヲ恭敬スルハ凡百ノ事業ノ根源ナリ 穆爾敦

⑧人ノ身ハ天地父母ノ恵ヲウケテ生レ又養ハレタル我身ナレバ我私ノ物ニ非ズ天地ノ賜モノ父母ノ遺セル身ナレバ慎ンデ能ク養ヒ毀ヒ傷ラズ天年ヲ長ク保ツベシ

傷ぶらざるは孝の始めあり  
身を立て道を行ひ  
名を後世に揚げ以て父母を顯あらわはは孝の終りあり 孝經

樂正子春  
創つくり憂うれへ  
外と出でセガ  
ル語

是天地父母ニ事へ奉ル孝ノ本ナリ 養生訓  
⑧周ノ時樂正子春ト云フ人アリ堂ヨリ下ルトキ過チテ足ヲ傷ケタリ其創瘳しうヘシ後數月ヲ經レドモ戶外ニ出デズ門人怪ミテ故ヲ問フ子春曰ク爾ノ問ヒ甚善シ予其故ヲ語ラン夫レ子タル者既ニ父母ニ完全ノ身體ヲ受ク故ニ亦完全ニシテ身ヲ終へザル可カラズ然ルニ予今過チテ足ヲ傷ケタリ創既ニ瘳ルト雖モ父母ニ對シテ恐レザル可カラズ是ワガ憂テ戶外ニ出デザル所以ナリト

# 第六 改過

①善ニ從フハ崩ル、ガ如シ 惡ニ從フハ崩ル、ガ如シ 語

①日々行ふ事毎に

①善ヲ見テハ速ニ行ヒ惡ヲ見テハ忽チ避ケヨ 童子教

①元ノ許衡嘗テ暑中ニ河南ヲ過グ喝キテ甚クシ道ニ梨

過かからんとを思ふべし 大和俗訓

アリ衆争ヒ取りテ之ヲ食フ衡獨リ樹下ニ危坐シテ自若タリ或之ヲ問フ衡曰ク其有ニ非ズシテ之ヲ取ルハ不可ナリ人曰ク世亂レテ此レ主ナシ衡曰ク梨主ナキモ吾心獨リ主ナカランヤ一遂ニ之ヲ取ラス

②惡シキ事ニ久シク染ミヌレバ其僻事ヲ知レズ罷メ難シ始メニ擇ビテ早ク改ムベシ 初學訓

②過<sup>ちが</sup>ふは則改むるに憚<sup>おそ</sup>ると勿<sup>な</sup>れ 論語

②人ノ善ヲ見テハ我モ行ハント思ヒ人ノ不善ヲ見テハ我が身ヲ省リミテ其如クナル不善アラバ改ムベシ此ノ如クスレバ人ノ善惡ヲ見テ皆益トナル 童子訓

③ロベルト<sup>ト</sup>フランクト<sup>ト</sup>共ニ犬ヲ弄シ戯レタルガ牛乳ノ瓶ヲ覆ヘシ瓶破レ乳汁コボレタリニ兒相見テ大ニ驚キ如何セント云フニフランクト曰ク我等母ニ告テ之ヲ謝ス

ベシ母常ニ過ヲ隱ス勿レト云ヒタリトロベルト曰ク我モ亦共ニ往カン普ク待ツマシト已ニメ今往ント呼ビケレバロベルト曰ク今且ク待ツベシ我レ未ダ往クヲ得ズトフランクト遂ニ獨リ往キ過ヲ謝シタリロベルトハ猶豫シテ往カズ反テ罪ヲ犬ニ歸シタルガ事遂ニ覺ハレ杖ヲ被リタリ

許衡無主ノ梨ヲ取ラザル話

ロベルトフランクト西人過ル話



泰時訟ノ  
聴キ録  
者ヲ賞ス  
ル事

③我人聖人ニアラ子バ誰カ  
過ナカラシ唯一念發起シテ  
已ガ非ヲ改ムレバ今日ヨリ  
シテ善人ナリ譬ヘバ道ニ踏  
ミ迷ヒタル人ノ一タヒ足ヲ  
轉シテ引返セバ直チニ本道  
ニ出ルガゴトシ大論行義大  
③北條泰時政ヲ聴ク日訟獄  
アリ甲既ニ口ヲ極メテ已ガ理ヲ申陳ス乙者乃チ要ヲ執  
テ對スルニ及デ甚ダ辭アリ甲者憮然トシテ覺エズ大息  
シテ曰ク吁吾屈セリト聞ク者嗤笑ス泰時獨リ感賞シテ  
曰ク然ラズ過ヲ知レバ改ムルヲ憚リ遁辭シテ已マザ

③人誰か過かから  
ん。過て能く改むる  
は善これより大な  
るはなり 左傳

ヒリツブ  
碎身談ヲ  
聞テ淨流  
スル語

ルモノ多クハ是訟者ノ情ナリ吾訟ヲ聴ク久シ未ダ曾  
テ此人ノ如ク真率ニシテ過ヲ改ムルニ吝ナラザル者ヲ  
見ズト遂ニ乙者ニ諭シテ其理ヲ中分セリ  
④亞米利加國ニヒリツブト曰フ者アリ其兄弟數人アリ  
ヒリツブ最モ幼ナリ一日其母衆兒ヲ爐邊ニ集メ之ニ脩  
身ノ談ヲ爲シテ曰ク往時某處ニ其室ニ於テ球ヲ投擲ス  
ルヲ禁セラレタル童子アリ  
然ルニ此童子其誨ニ違ヒ過  
チテ美麗ナル鏡面ヲ碎キシ  
ガ自ラ謂ラク今之ヲ知ル者  
ナシ若シ他日此ヲ詰問セラ  
ルレバ亦吾ニアラズト曰ン

④西諺に曰後悔は  
愚者の鞭むち又曰他人  
の過失は己の師匠

ノミト之ヲ其父母ニ告グザリシ汝等其舉動ヲ以テ如何トスルヤ皆曰ク事實ヲ告グルニ若カザルナリト獨リヒリツプ黙然トシテ答ベズ忽チ地板上ニ卧シテ號泣セリ其女兄等怪テ故ヲ問フニ肯テ答ヘズ母又獨リ之ヲ室内ニ招キ徐カニ之ヲ問フヒリツプ乃拜謝シテ曰ク兒嚮日啣筒ノ傍ニ水奉ヲ置キ過チテ之ヲ破碎セリ當時之ヲ知ル者ナケレバ竊カニ之ヲ隱匿シ尔後嬉遊ニ耽リテ之ヲ告グザリシガ今母君ノ談ヲ聞クニ及ンデ中心銜クガ如ク痛苦自ラ禁ゼズ故ニ泣ケリト

五 我身聖人ニアラズ過多キハ宜ベナリトテ過ヲ知りナガラ改メザル人ハ無下ニ道ニ志ナキ人ナリ箇様ノ志ナ

五 善も積ざれば以

て名を成るに足ら

ず 易經

フランキン  
自ラ過テ  
簿記シ戒  
懐スル事

六 フランクリン曰ク園圃ヲ清潔ニナス者一時ニ園中ノ雜草ヲ刈除セント欲スル時ハ力及バズシテ終ニ其業ヲ全廢スルノ恐アリト雖モ先園中ノ一隅ヨリ之ヲ始メ其終ルニ及テ然ル後復他所ニ及ボシ漸ヲ逐フテ業ニ進ムトハ其業ヲ成就スルヲ得ベシ吾今我不徳ヲ一時ニ除

六 毎日の善事を

知り一の善事を行

ひ小を積て止まざ

れば必大に至る可

去セント欲スト雖モ必其志

ヲ遂グル一能ハガルヲ悟リ

是ニ於テ毎日我過アル毎ニ其記號ヲ此簿冊ニ附シ日々

其記號ノ數ノ減ズルヲ以テ樂トス若シ漸ヲ遂ヒ德ニ進

ミ數百日ヲ經ルノ後此簿冊ノ白紙ノミトナルヲ得バ

我悦又殊ニ大ナラント

〔七〕宋ノ司馬光五六歳ノ時胡

挑ヲ弄ス女兄爲メニ其皮ヲ

脱セント欲スレモ得ズ女兄

去ル後一婢湯ヲ以テ之ヲ脱

ス女兄復タ來リ胡桃ノ皮ヲ

脱セシ者ヲ問フ光曰ク自ラ

脱スルナリ其父適々之ヲ見

テ呵シテ曰ク小子何ゾ謾語スルヲ得ント光是レヨリ

敢テ謾語セズ後誠ノ工夫ヲ學者ニ授ケテ曰ク妄語セザ

ルヨリ始ルト

〔七〕人ノ過失アルヲ見テハ他人へ廣ク露見セヌ様ニ言ヒ

隱シ漸々ニ改メサセ又人ノ少コシニテモ善事ヲナスヲ

見バ愈善心ニ進ム様ニ人ニモ吹聴シテ取りハヤス様ニ

スベシ和語陸隱錄

洪覺山

〔七〕善を見ては則遷

り過あれば則改む

るは大勇と謂べし

# 第七 戒慎

〔一〕言ヲ慎ムハ乃チ學ヲ爲ス  
第一ノ工夫ナリ 薛文清

〔一〕世に處をるは多

○一口 = 信セテ妄ニ談ズル者ハ風狂ヲ病テ自ラ覺エザルガ如シ讀書錄

○二言ヲ慎ミテ一言ヲ出スニ

モ能ク思索シテ言ヘバ言語ハ自ラ寡シ無理ニ口ヲ閉ジテ言ハザルニハアラス大和俗訓

○三西諺ニ曰ク先ツ考ヘテ而ノ後ニ施セ

○三板倉勝重京尹ト爲リシ時重宗重昌ノ二子留リテ江戸ニ在リ徳川家光二子ノ識力

重宗重昌兄弟疑獄ヲ判スル

ヲ試ミント欲シ疑獄ヲ設テ之ヲ決セシメシニ重宗ハ

三日ヲ經テ案ヲ具ヘント乞フ重昌ハ立ロニ斷シ曲直判然タリ斯レ三日ノ後ニ兄ノ狀ヲ獻ズルヲ見ルニ其判決ハ弟ト同ジカリシカバ人皆弟ヲオアリト謂ヘリ勝重江

ると少しレツシンググ

言を戒む言多ければ必失あり治家格言

○二言を出るには必

行を顧る張思叔座右錄

○三先つ施して後

思ふときは悔いざ

戸ニ朝スルニ及ビ家光之ヲ説キ出セシニ勝重對ヘケルハ重昌ガ智ノ及ブ所ヲ重宗ノ心得ヌ一バナシ但鈞命ノ尊嚴ト決獄ノ重事トヲ思ヒ三日ニシテ後ニ案ヲ具フ斯ル慎重ノ心懸ハ重昌ノ遠ク及バザル所ナリト後重宗京師ノ所司代タル一三十年ナリシガ世ニ良吏ヲ以テ稱セラレ獄ヲ治タル一尤公正ナリ常ニ法衙ニ出ヅル時ハ途ニ愛若ノ神ヲ拜シテ曰ク某敢テ私ヲ行ハズ万一事ノ私

キ出ヅル一アラバ神ノ靈ヲ以テ速ニ死ヲ賜ヘト誓ヘリ  
④喜ニ乗ジテ言ヲ多クス可カラズ快ニ乗ジテ事ヲ易ク  
スベカラズ 薛文清

④喜ブ時ノ言ハ誠寡ク怒ル時ハ特ニ言語ヲ慎ミテ喜怒  
ノ為メニ心ヲ傷ラル、一勿  
レ大和俗訓

④意盡キテ言止ムハ天下ノ  
至言ナリ 蘇東坡

④西語ニ曰ク拙ク行フハ巧  
クニ言フニハ勝ル

⑤凡父兄師友ト道フベカラ  
ザル者ハ為スベカラズ凡父

兄師友ト為スベカラザルモ  
ノハ道フベカラズ 畜德錄

⑤君子ノ事ニ於ケルヤ其行  
ハザルヲ得ザル所ヲ行ヒ其

止メザルヲ得ザル所ヲ止ム  
言ニ於ケルヤ其語ヲザルヲ

得ザル所ヲ語り其黙セザル  
ヲ得ザル所ヲ黙ス故ニ尤メ

寡シ悔イ寡シ 呂新吾語錄  
⑥郷里人物ノ長短ヲ論ジ鄙

俚無益ノ談ヲ為ス一ナカレ  
五種遺規

④言を慎み行を篤  
くするは身を修む  
る道なり 大和俗訓

⑤人の聞くと無き

を欲せば言ふと無  
きま如くはなし

人の知ると無きを  
欲せば爲をと無き

に如くはなし 枚乘

⑥耳人の非を聞か

六 古人ノ是非ハ之ヲ品評スルモ可ナリ今人ノ善惡ハ之ヲ妄議スル不可ナリ恨ヲ取ルハ多ク妄議ニ在リ言志 羞錄

六 人ノ譽メ毀リヲ聞テ能ク察スズシ智ナキ人ノ譽メ毀リハ必信ズベカラズ大和 俗訓

七 人ノ隱事ヲ言ヒ人ノ短ヲ謗リ人ノ事ヲ難シ人ノ耻ヲ許ク者ハ終ニ禍ヲ招キ身ヲ亡ボスニ至ルナリ十訓抄

八 穢言人ヲ罵レバ人必汝ヲ罵ル強キヲ恃ミ人ヲ凌ゲバ人亦汝ヲ凌グ童子習

八 爾ニ出タルモノハ爾ニ反ルモノナリ孟子

八 人ヲ謗リテ假令ヒ理ニ當ルモ厚キ道ニ非ズ況ンヤ實ニ過グルヲヤ初學訓

八 人ヲ誹リテ人知ルマジキト思フハ愚ナリ惡事千里ヲ行ク理アリ又壁ニ耳アリト思フベシ中ニ就キテ君上ヲ誹ルハ大不敬ニシテ其罪大

目人の短を視ずたん  
口人の過を言はずたん

省心錄

七 西諺に曰聞きしだけ信ざるか知れるだけ語るか

八 人を譏れば人亦我を譏る故に人を譏るは即ち自ら誹るなり大和俗訓

九 一言の過も莫大ばくだいの禍とかり一事の

小學修身鑑補

卷之五

星

ナリ 初學訓

⑨ 人生家ヲ喪ヒ身ヲ亡ボス

ハ言語其八分ヲ占ム 呂新吾 小宛語

⑩ 身ヲ終ルマデ善ヲ為シ一

言ニシテ之ヲ欺ル慎マザルベケンヤ礼子家語

⑪ 假初の言の葉舟は風たちて

露のふれ身のおきどころなき 心 學道歌集

失も終身の憂としゆしんか

る一シヤウとあり 大和俗訓

# 小學修身鑑補卷五終

廿四紙教改

明治二十年二月八日版權免許  
同 年六月 日刻成

福岡縣士族

編輯人

吉田利行

福岡縣福岡區福岡濱ノ町二十二番地

同縣平民

出版人

右田喜久郎

同縣同區博多掛町十一番地

定價全八錢五厘

1201

